大銀杏

第51号
令和5(2023)年
4月28日
藤嶺学園藤沢
中学校・高等学校
新聞部
(高校)
井上晴道 井上晃喜
樫山翔太 荒嶋航成
高橋 新 水野 真
野田 諒 細貝 陽
田中湧大 植竹隼也
経澤悠希 稲生海凪
川村一惺 高橋航之介
(中学校)
池田晃太郎 湖山武司

題字 東山右徹先生

第11代 林 学 校長就任 暖かな春 新入生迎える

4月5日穏やかな春の陽の光の中、本校講堂にて入学式が行われた（午前、高校197名普通109名 一貫88名、午後、中学校80名）。式辞の中で校長先生は、本校生徒としてこのようにあって欲しいという思いを、分かりやすく「トウレイ」で語られた（トップを目指す向上心。生み出すチカラ創造力。礼儀正しい謙虚な心。一途に頑張る勇猛精進。）また4月1日付けで校長に就任し、覚悟を持って教育活動を進めていくことを表明された（㊧写真中学式辞）。

中学校入学式では吹奏楽部の歓迎演奏も行われた（㊦写真）。

林学校長先生は『中学校20年史』や「藤嶺叢書」を見てみると第11代の校長とわかる。今年創立108年を迎える藤嶺藤沢に学ぶ新聞部員として一途に頑張り、生み出していこうと思う。【川村】

硬式野球部 県8強 粘りの勝利
「次戦 臆することなく全力で挑む」

4月22日13時過ぎ大和スタジアムにて春季神奈川県高等学校野球大会4回戦、藤嶺藤沢対藤沢翔陵が行われた。翔陵は藤嶺藤沢と同じ学校法人の兄弟校で強豪である。結果は9回表に見事逆転した藤嶺藤沢が3-1で勝利を収めた。翌々日、取材をするとミーティングの後であったにも関わらず、加藤央祐主将（3D）、根岸大和投手（3E）、植松大智選手（2F）は丁寧に質問に答えてくれた。

その瞳から次戦への闘志が伝わってきた。

翔陵戦を振り返って？

加藤主将　全員で粘り、勝利することができた。

根岸投手　普段できているピッチングができなかったが、何とか9回まで粘り強く投げることができ、勝つことができた。

植松選手　最後まで全員で粘り強く頑張れた。

翔陵戦で印象に残るシーンは？

加藤主将　色々な場面があるが、やはり植松の最後のヒットが良かった。

根岸投手　141球　9回完投
被安打5　三振5　四球3

根岸投手　前半で得点できると思っていたが先制を許した。それでもチームの得点を信じて、何とか粘り強く投げることができた。

植松選手　鈴木さんの守備。打たれたら失点に繋がる場面で、よいポジショニングからアウトにできた場面。

次戦への意気込みは？

加藤主将　関東大会を目指しているので慶應という格上でも臆することなく全員で全力で挑む。

根岸投手　相手の強さ関係なしに、平常心で相手の打者をねじ伏せる。

植松選手　任せられた役割を全力でプレーする。

次戦のポイントは？

加藤主将　根岸がどれだけ慶應打線を抑えられるか、守備でも攻撃でも援護したい。

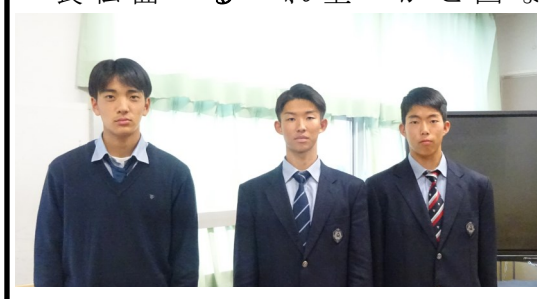
根岸主将　自分のでき次第、相手打線を抑えたい。

植松選手　打者陣がどこまで根岸さんを援護できるかがポイント。

インタビューを振り返り、試合でのプレーだけでなく選手の言葉にも、息が合っていて仲間を信じる頼もしさ、勝利のためのチームワークが感じられた。

29日、スタンドから藤嶺藤沢を応援しましょう。

【川村 写真:経澤 稲生】



㊧から根岸投手 加藤主将 4回戦決勝打植松選手

4回戦	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	H	E
藤嶺藤沢	0	0	0	0	0	0	0	1	2	3	8	1
藤沢翔陵	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	5	1

BATTERY：根岸 大和 投手 － 小早川 仁 捕手

令和4年度 台湾研修旅行

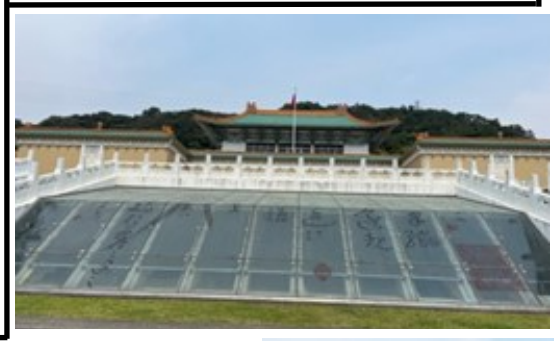
中3生32名は3月21日から3月25日の4泊5日で台湾へ研修旅行に行って来ました。

1日目 出発！

羽田空港国際線ターミナルに集合し台湾に向け出発しました。台北松山空港に到着し海外研修が始まりました。この日はホテルに移動し、台湾の食事を頂き、異文化に触れることができました。

2日目 故宮博物館 忠烈祠 台湾実践大学

故宮博物館（㊧写真）を見学しました。白菜と角煮の形をした芸術品が有名ですが、この日は角煮しかありませんでした。この2つは有名で、他の博物館に交互に展示されるため揃うことはあまりないという説明でした。その後忠烈祠（㊧写真）へ行きました。



忠烈祠とは1969年に創建され、辛亥革命や抗日戦争、国共戦争で戦没した約33万人の兵士が英霊として祀られています。忠烈祠では1時間に1回衛兵の交代があり、交代式を見学しました。忠烈祠の警備をする衛兵は、台湾軍の中でもエリートしかなれないとの説明でした。警備をする際には微動でも許されないので、とても厳かな雰囲気でした。

午後は台湾実践大学で京劇と中国語の勉強をしました。

夜には台湾で2番目に大きな夜市（㊧写真）に行きました。台湾では一日3食を家で必ず食べるという風習がなく3食ともに外食ということがあるようです。そのような文化もあり夜市は人と食べ物の香りであふれていました。その中でも段違いで匂いがきついのが臭豆腐でした。

3日目 大学生との交流

この日は、台湾研修でもメインプログラムの「ブラザー＆シスタープログラム」がありました。グループに分かれ現地の大学生と交流するプログラムです。

私のグループはリスク管理と社会保険を学んでいる鄭凱欣さんと国際経営と貿易を学んでいる陳俞君さんが担当して下さいました。鄭さんと陳さんには朝から夕方まで台北市内の観光名所などを案内していただきました。移動は主に地下鉄でした。ユーユーカードというカードをを使い乗車します。台湾の駅では飲食は禁止になっています。地下鉄の駅の名前が府中・板橋などがあり時々日本を感じることがありました。

鄭さんと陳さんに台湾かき氷を教えて頂き、実際に食しました（㊨写真）。台湾かき氷はお芋や大きめのタピオカなどが入っていて日本にはないかき氷でした。その後私たちの希望した場所にして頂きました。

その中でも台北101（㊦右写真：陳俞君さん撮影）はとても賑わっていて日本でいう銀座のような感じでした。

鄭さんと陳さんは、日本語ではなく英語と中国語でしか会話できませんでした。そのような環境が貴重でこのプログラムを通して言語の関心が高まりました。

鄭さんと陳さんとの記念写真 (鄭凱欣さん撮影)

台北の街並み (鄭凱欣さん撮影)

4日目 九份 十份

午前に九份に行きました。霧が濃く視界があまり良くありませんでした。九份は晴れれば綺麗な景色と聞いていましたが残念ながら霧が晴れませんでした（㊦右写真）。午後は十份に行きました。昔から行われきた灯籠上げを体験することができました。灯籠上げはなんと線路の上で行いました（㊧写真）。

ガイドの方に飛んで行った灯籠はどうなるのかと聞いたところ掃除する専門チームがいるそうです。この灯籠は4面あり、面毎に願い事を書いて飛ばしました（㊧写真）。

5日目 帰国／考察

台湾研修旅行に参加して、言語が通じず不便を感じたこともありましたが、通じないながらも言いたいことを伝えようとする重要性と自分から話しかける大切さを理解することができました。他国の文化に触れて学ぶということも有意義でした。最後に台湾研修でサポートしてくださった実践大学の学生の方々にも感謝しております。

謝謝你們給我介紹台灣的各個地方，多虧了你們兩個，我才喜歡上了台灣。如果有機會，請來日本。介紹東京。

【稲生】